実践例　およげないりすさん（教科書P.68-71）

	学習活動（主な発問と児童の反応）	指導上の留意点
1	**▶事前アンケートの結果を見る。** **○昨日取ったアンケートの結果を見てみましょう。結果を見て、どう思いますか。** ・誰にでも同じ態度で関わることができない人のほうが多い。 ・態度を変えるっていうか、変わっちゃう感じ。 **▶教材の挿絵を提示し、登場人物の表情の変化に着目させる。** **○挿絵を見てください。最初と最後の挿絵で、みんなはどんな顔をしているでしょう。** 〈最初の挿絵を見て〉 ・白鳥さんは普通。かめさんは怖い顔をしてる。 ・りすさんが困ってる。 〈最後の挿絵を見て〉 ・みんなうれしそう。 ・あんなに怒ってたのに、急に変わるなんて。	・端末を活用して、事前に、「誰にでも同じ態度で関わることができるか」について、選択式のアンケートを取っておいた。 ・アンケート結果を基に、このままでよいかと投げかけ、本時の学習に結び付けた。 ・教材内容に興味・関心がもちやすくなるように、朗読の前に、教材最初と最後の挿絵を見せた。また、挿絵を比べて、教材の中で、何か変化があったことを押さえた。 ・２枚の挿絵の登場人物の表情に注目させ、それぞれの心情を想像させた。 ・児童どうしが互いの顔やタブレットを見やすいように、机をコの字型に並べておくとよい。
	テーマ　みんなで　なかよくできると、どんな　きもちになるでしょう。	
2	**▶「およげないりすさん」を読んで、話し合う。** **①４匹はそれぞれどんな気持ちだったでしょう。スマイルメーターで表しましょう。** ・かめ 〈不満〉りすさんは泳げないのに。 〈不満〉本当は入れてあげたいけど、みんながだめって言うから。 ・白鳥 〈少し不満〉りすさんは泳げないから、どうしよう。 ・あひる 〈すっごく不満〉３人しかできない（遊べない）よ。意地悪な感じで言ってる。 ・りす 〈すっごく悲しい〉仲間はずれにされて悲しい。	・児童の集中が途切れないよう、場面ごとに区切って朗読をした。まずは、P.69L.1の３匹がりすさんを仲間はずれにする場面までを朗読した後、左の①のように指示した。その際、登場人物を一人選び、その気持ちをスマイルメーターで表すよう伝えた。同じ場面でも立場によって、気持ちが異なることを確かめられるようにした。 ・登場人物ごとに何名か指名し、前に出て発表させた。前で発表する際には、登場人物の挿絵を貼ったメダルを首から掛けさせ、どの登場人物を選んだかが、発表する児童にも、見ている児童にも、わかりやすいように工夫した。
	②あひるさんたちは、何に気づいて、りすさんに「ごめんね。」と言えたのでしょう。 ・りすさんが悲しんでいたこと。 ・りすさんがかわいそうだから、やめようって。 ・罪悪感が、謝ったらましになるから。罪悪感は、「悪いことしちゃった、どうしよう。」って思うこと。 ・りすさんを仲間はずれにして悪かったなあって。	・P.70L.8の白鳥さんとあひるさんが謝る場面を朗読した後に②のように発問した。 ・児童の相互指名で、発言をつなげさせた。 ・教師は、「悪いことをしたっていうのは、何について？」「罪悪感って、どういうこと？」などと追発問をし、児童の考えを引き出した。
	中心的な発問 **③お話の最後で、４匹はどんな気持ちになったでしょう。スマイルメーターで表しましょう。** ・〈すっごくうれしい〉みんなで行けたから。 ・〈すっごく満足している〉みんなが幸せになった。 ・〈すっきりしている〉嫌な気持ちがなくなった。	・P.70L.9から最後までを朗読した後に発問した。最初の場面の挿絵を改めて提示し、そのときからの変化に着目させるようにした。 ・意見を交流した後に、みんなで仲よくすることが、一人一人の満足感や幸せな気持ちにつながることを学級全体で確認し、道徳的価値を自覚させた。